

日本日中関係学会青年交流部会”第1回定例会”報告

新生青年交流部会の初回定例会は、コロナ禍で外出自粛要請のなか、下記の如く Zoom による Web 会議となりました。(文面の敬称省略をご容赦願います)

日時：2020年7月7日(火) 18:30 ~ 21:00(一部分科会 21:30)

参加者：登録者 75 名、参加者 70 名

(内訳) 日本：41.4%、 中国、韓国、ベトナムなど：58.6%

海外在住者からのアクセス：18.6%

若者比率：85.7%

事務局参加者：国吉、林、藤村、高山

大学ゼミ(五十音順)：湖南師範大学外国語学部研究グループ、拓殖大学 関口美幸ゼミ、
東洋大学 劉永鶴ゼミ、日本大学 高久保豊ゼミ、明治大学 郝燕書ゼミ、

他：岡田実(拓殖大学教授) 王紅(立志会理事長)

参加大学(五十音順)：

日本から12校＝関西大学、関西学院大学、慶應義塾大学、拓殖大学、大東文化大学、
東京大学、東洋大学、日本大学、一橋大学、広島大学、明治大学、早稲田大学

中国からは7校＝華東理工大学、湖南師範大学、上海師範大学、中山大学、南京大学、
北京大学、北京外国語大学

会議進行：総合司会：陳星竹(第6回宮本賞受賞者)、

趣旨説明：朱杭珈(第6回宮本賞受賞者)

運営サポート：高久保豊



議 題：

第1部 研究発表と質疑応答：

第8回宮本賞最優秀賞受賞者 鈴木日和さん(慶應義塾大学法学部政治学科3年)

「日本の若者層を中心とする対中世論改善の可能性」

目次/ CONTENTS		
PART ONE はじめに	PART TWO 日本の若年層の対中イメージ	PART THREE 「対中イメージ」を構築するもの
04 / 「日中世論調査」を見る	06 / 独自調査の概要 07-09 / 独自調査の結果	11 / 「直接交流」の可能性と限界 12 / 「中国人の国民性」とは
PART FOUR ニューメディアの言論空間	PART FIVE おわりに	PART SIX 参考文献
14 / ニューメディアとは	18 / 今後の展望	20/ 参考文献

要旨：日本の若者の対中世論改善について、

中国を「知る」若者を起点に、中国に「近い」層から、そうでない層への「拡散」には、ニューメディアが大きな役割を果たす。

18 ● 今後の展望

中国を「知る」若者を起点にした緩やかな改善

- 直接交流は、直に全体の認識を変えることはできないが、**変化の起点**となりうる「中国に『近い』層」を生み出している
- 「中国に『近い』層」からそうでない層への「拡散」には**ニューメディア**が大きな役割を果たすものと予想される
- **伝統メディア**の役割は、情報の偏りや信頼性といったニューメディアの弱点を補い、**責任ある、確かな情報発信**を続けることになるのではないかと

中国に対する印象は「悪い」層
アンケート調査では「悪い」「どちらかといえば悪い」に該当。
情報源の多様化により、中国の多面性を知る。

「興味はないが嫌いでもない」層
アンケート調査では「よく分からない」に該当。
周囲で興味を持つ人が増えるにつれ、情報を目にするように。

中国に「興味はある」層
アンケート調査では「どちらかといえば良い」に該当。
中国に対して、興味はあるが知る機会がなかった層。

中国に「近い」層
中国に対して「良い」印象を持ち、実際にも中国との関りが深い層。
Eg) 留学・国際交流経験者、中国にルーツがある人など

OfficePLUS.cn

第2部 第8回宮本賞受賞者 一人一言

幹事会、事務局メンバー紹介、第2回以降の定例会に向けた抱負説明

第3部 7組に分かれて分科会(宮本賞受賞者への感想レターを中心とした懇親会)

【青年交流部会講評】

「若者主体・若者の目線」「小さく軽やかに始める」をスローガンに、新生青年交流部会第1回定例会は、第8回宮本賞受賞者14人（グループ）のうち、やむをえず不参加の2人を除き、ほぼすべての受賞者が参加して、はからずも今春中止になった若者シンポジウムのWeb版となりました。

会議開始30分前から続々と入場者が相次ぎ、開始時間にはすでに若者の熱気が十分感じられ、終了時には第2回目以降の更なる期待を伺わせる大盛況ぶりでした。

Webを活用しての交流は、コロナ後の新手法として、国境を跨ぐこの種の活動には、ぴったりでした。そして第2回以降への足掛かりもかなりできたと思います。

参加した若者、オブザーバーの皆さんからも多くのご意見、アドバイスを頂きました。

今回次世代を担う若者の交流場面に接し、改めてその重要性を再認識しました。日中関係学会の主要活動である若者交流部会は、新しい場面に入ったと確信いたします。

参加された皆様に心から御礼申し上げます。特に今回部会長の高久保理事、朱さん、陳さんの3名は大変お疲れ様でした。そのご尽力に心より感謝申し上げます。 (三村記)